

小学校5年生 自然災害を防ぐ
第3時 ワークシート(B4サイズ)

平成18年7月の豪雨のときに水害でひなんした人の

湯田下公民会 山本さん



水害後に家の中のかたづけを始めるとき、知人が作ってくれたおにぎりがとってもうれしかったのを思い出します。でも、ああいう経験はもう二度としたくないですね。あの日は主人は単身赴任中で、私は虎居で仕事でした。家もひなん指示がでていると電話があり急いで帰りました。でも、川の水位を見てあまり危機感がなかったのをおぼえています。湯田研修館にいどうし、ひなん所で二晩すごしました。水がひいた後の家の中はすべてがめちゃくちゃでした。特に、冷蔵庫が台所のカウンターの上にあったのを見てあらためて水のこわさを思い知りました。

大願寺公民会 下小園さん



家の前の田んぼは、大雨の時にときどき浸水することがあったので、あまり心配していなかったのですが、こんなのは初めてです。公民会長さんから「危険ですよ。」と声をかけてもらって、にげようとしたときには、既に川内川支流の川の水があふれていて、家の前は川のように水が流れていました。何も持ち出せず、必死でにげたのをおぼえています。浸水後の家の中を見た瞬間の記憶はもう思い出したくないですね。でも、被災後に集落全員で後かたづけや炊出しをしてくださったときはほんとうにうれしかったです。

西手西公民会 迫さん



玄関の前を水が流れ出し、近くで働く主人に電話をして帰ってきてもらい、一緒ににげだしました。ほんのわずかのあいだに、家の中の家具はぷかぷかうきはじめていました。主人とかばん一つ、車も使えず、きのみきのまま近くの高台にひなんしました。水がひいた後の家の中の様子はあるていど覚悟をしていましたが「どうしよう」と途方にくれました。でも、友人やボランティアの方々など多くの方に助けられました。特に、鶴田中学校野球部の子どもさんが床下で懸命に泥だし作業をやる姿に胸がいっぱいになり被災の心が癒されました。ああいう経験をしましたが、みなさんに助けられたという思いが強いですね。

平成18年7月の豪雨のときに水害で救助した人の

さつま町消防団西部方面隊長 末吉さん



消防署から連絡があったのは午前9時だったと思います。それからすぐに町内の見まわり活動をはじめました。ひな人をよびかける活動、行方不明者の捜索、にげ遅れた人の救助活動を続け、車庫に戻ったのは午後8時30分すぎでした。それにしてもこんな水位は初めてですよ。そのせいか、何度もひな人をよびかけてもおうじてもらえませんでした。また、体が不自由で動けない高齢者を救助したときに、日頃の見まわり活動が必要と感じました。

さつま町消防団虎居分団団員 宮さん



出動要請があって現地につくとおどろきました。民家のすぐ近くに水がせまってきています。急いでひな人するように強くよびかけました。あわてて高齢者を背負ってひな人所まで運び、おりかえして他の住民の救助にかけつけたときは、腰まで浸水していたためすぐには近づけませんでした。仲間のひとは急流に流され命の危険にさらされました。携帯電話も水没したため連絡がとれず、どこに住民がとり残されているのか把握するのに苦労しました。今思えば、最悪の結果を出さずに救助できたことは奇跡だと思っています。

東町公民会 野元さん



わたしの場合は、つり仲間から電話がありました。所有するゴムボートを持っていくと、要請があったところは「流れが速くてとても近づけない」と言われました。近くにいた消防署員から「とり残された人がいるので手伝ってくれ」と言われ、いっしょにその場所に向かいました。首までつかりながらボートをひいていくと、ヘビやわれたピンが流れてきます。身の危険を感じましたが、屋根の上で救助を待つ人たちを救助できたことは本当によかったと思っています。